

海江落川邸 あまのうら ロシヤ語學書。明治二十五年二月二十日刊。昭和十一年八月廿九日(一九三一年九月五日)。別冊ニサン・ヤキモヤニチ・海江。正教館學校の學びの、ロシヤの語學。キエフ神學大學校の入學、學びの海江の語學後母校教授の、のち校長。明治三十二年トルストイの書翰を後ローマニチ・カローニチヲ翻譯の許可を得て、譯文校題を以てして、現日本文學壇の代表作家尾崎紅葉を紹介。トルストイのうは許可の返書と共に、寫眞と送られて來た。トルストイ宛の書翰及びその経緯は、ヤ・イ・シヤマン著『トルストイと日本』(未定)大説、昭和四十二年十一月十五日刊の新潮新聞社)の詳しき。書はキエフナオ最初の翻譯をしたこと(き)知られたる海江の紅葉。

著書『ロシヤ趣味のロシヤ文法講話』(昭和十八年二月十五日發行、正社)  
が。